

「平成30年度横浜市学力・学習状況調査」の結果

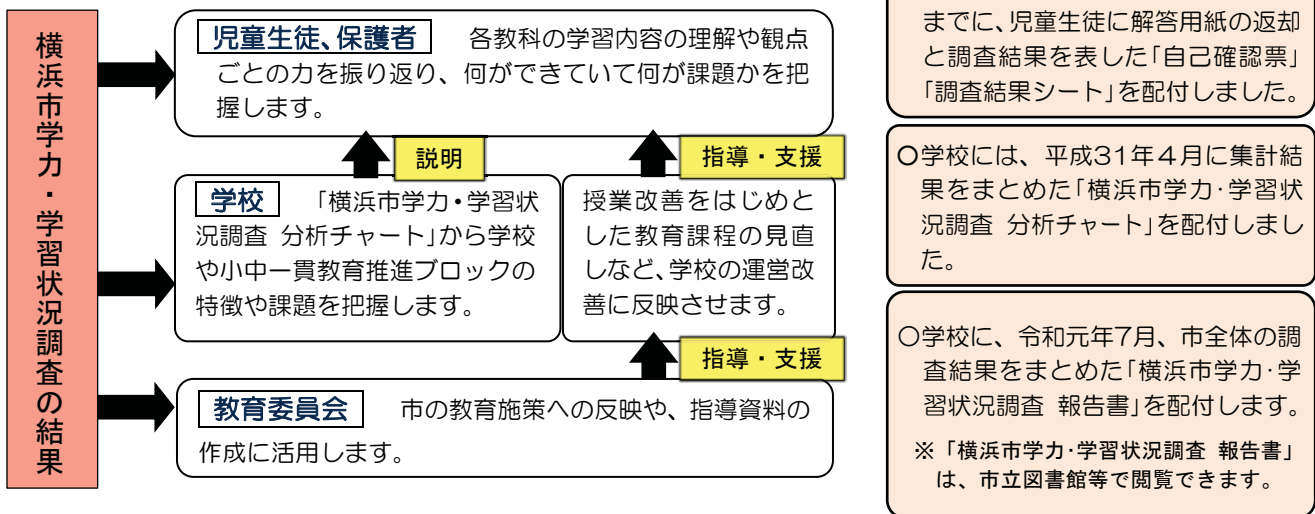
本市では、毎年、市立の全小中学校及び義務教育学校の児童生徒約27万人を対象に、学力・学習状況調査と生活・学習意識調査を行っています。この調査の結果を、児童生徒・保護者と学校で共有し、児童生徒の学力向上や教員の授業改善等に役立てます。教育委員会では市の教育施策や学校への支援に活用していきます。30年度の調査の結果につきまして、「横浜市学力・学習状況調査報告書」にまとめました。

調査の実施概要

調査対象	小学校 1、2年	小学校 3～6年	中学校 1、2年	中学校 3年
調査実施日	平成31年2月7・8日		平成31年2月21・22日	平成30年11月8・9日
調査教科	国語、算数 (2教科)	国語、社会、算数、理科 (4教科)	国語、社会、数学、理科、 外国語(5教科)	国語、社会、数学、理科、 外国語(5教科)

※生活・学習意識調査は全学年で実施。

調査の目的・活用



今回の調査の結果から ※「横浜市学力・学習状況調査 報告書」からの一部抜粋

「教科別調査結果」より

小学校6年・中学校3年の各教科の「基礎・基本問題」と「活用問題」の調査結果は、次のとおりです。

「基礎・基本問題」、「活用問題」の平均正答率(%)

※小学校では、「基礎・基本問題」の想定正答率はおおむね65～75%、「活用問題」はおおむね55～65%としています。
中学校では、「基礎・基本問題」の想定正答率はおおむね65～75%、「活用問題」はおおむね50～60%としています。

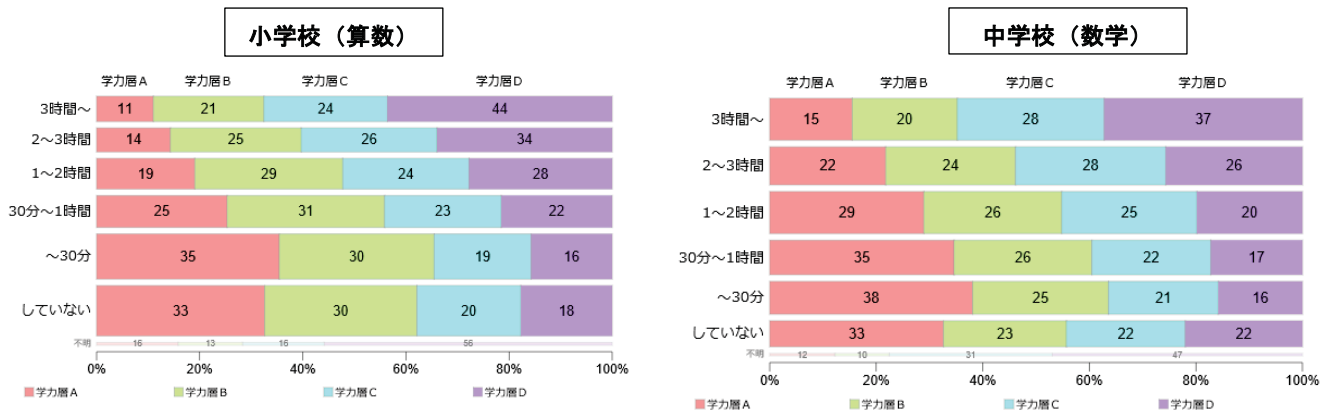
学年	小学校第6学年・義務教育学校第6学年								中学校第3学年・義務教育学校第9学年									
	国語		社会		算数		理科		国語		社会		数学		理科		外国語	
基礎・基本/活用	基	活	基	活	基	活	基	活	基	活	基	活	基	活	基	活	基	活
平成30年度	65	39	74	63	68	41	75	63	63	60	63	52	70	37	64	44	63	28

「学力・学習状況調査と生活・学習意識調査とのクロス集計結果」より

- ※ 帯グラフの縦幅は、人数の大小を示す。(帯の縦幅が太いほうが、細い方よりも人数が多い。)
- ※ 学力層とは調査の対象となる児童生徒数を正答率で4分割したものの、「学力層A」が上位。

1 携帯電話やスマートフォンの使用時間と学力には関わりが見られます。

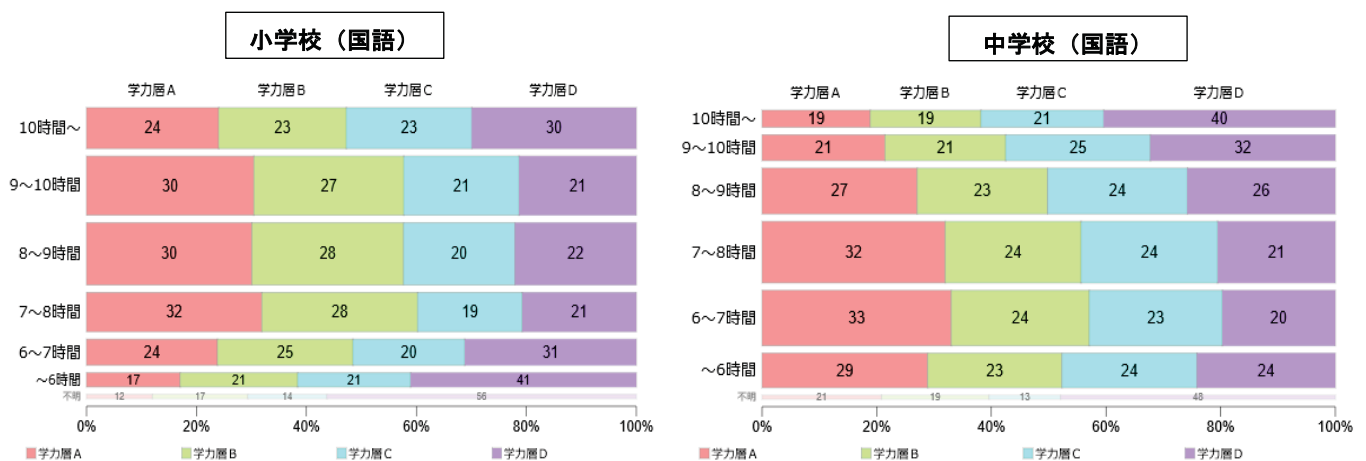
【資料1】「1日に、携帯電話やスマートフォンを操作して、インターネットやメール、SNSをどれくらいしていますか。」×「学力層」(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く。)



【資料1より】携帯電話やスマートフォンの使用時間と学力層との関わりを示しています。1日の携帯電話やスマートフォンの使用時間が長くなるほど、学力層の下位の割合が高くなる傾向が見られます。この傾向は中学校よりも小学校の方が顕著に表れることも分かります。各家庭において、携帯電話やスマートフォン等を使用する際には、時間やルールを決めて使うことがより望まれます。

2 睡眠時間と学力には関わりが見られます。

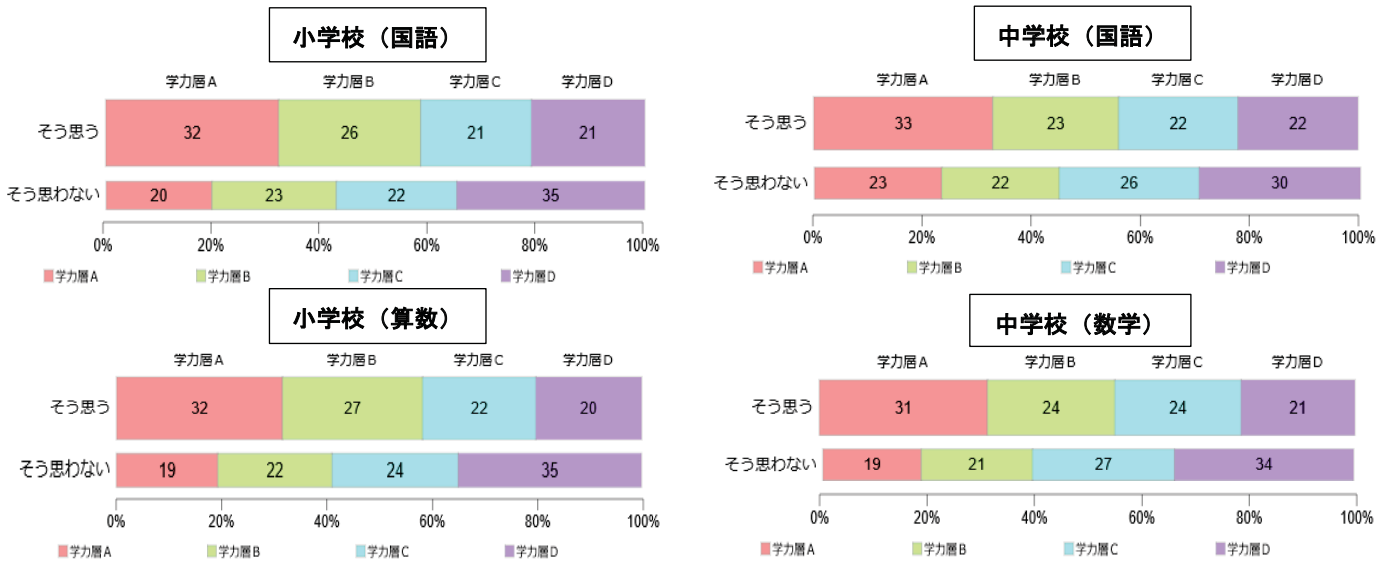
【資料2】「1日にどのくらい寝ていますか。」×「学力層」(小学校)、「1日にどのくらい睡眠時間をとりますか。」×「学力層」(中学校)



【資料2より】児童生徒の1日の睡眠時間と学力層の関わりを示しています。小学校では7時間から10時間の睡眠時間、中学校では6時間から8時間の睡眠時間をとっている児童生徒は、学力層の上位になる傾向が見られます。また、中学校では10時間以上と回答している生徒、小学校では6時間未満と回答している児童の学力層Dの割合が高い傾向があります。今後、就寝時刻と起床時刻等についての調査を行い、規則正しい生活と学力との関わりについての傾向を調査するなどして、児童生徒の生活改善に資する調査項目を検討していく必要があると考えます。

3 自己肯定感と学力には関わりが見られます。

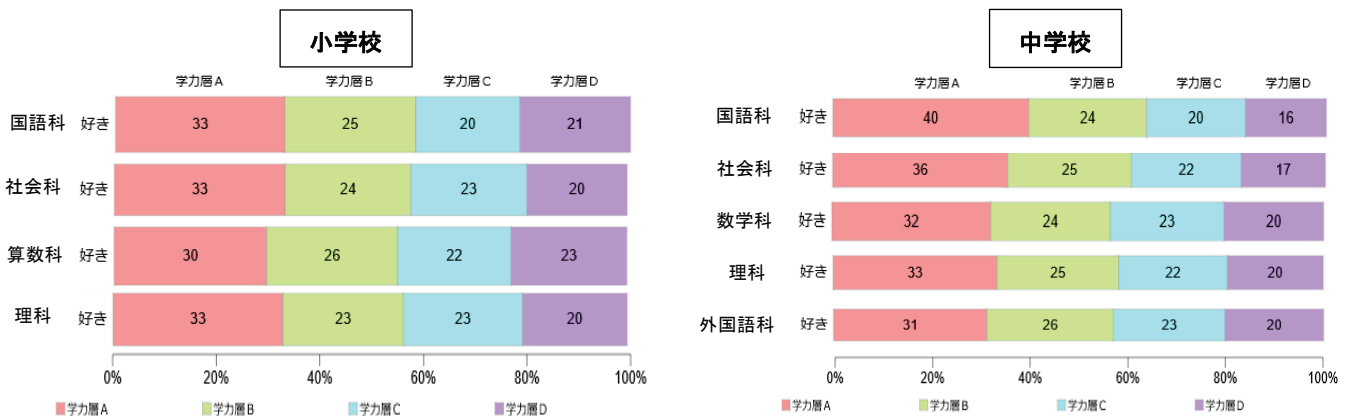
【資料3】「自分にはよいところがあると思いますか。」×「学力層」



【資料3より】 自己肯定感と学力層との関わりを示しています。「自分にはよいところがあると思う」と回答している児童生徒は、学力層 A の割合が小学校、中学校ともに 30% を超えており、学力層 B まで含めると、いずれも 50% を上回ることが分かります。(小学校、中学校ともに国語、算数((中学校は数学))を掲載。) 自己肯定感を高めていくことは、学力を向上させることにもつながる可能性が高いと考えられるので、授業や学校生活の中で、人との関係づくりやコミュニケーションを図る場面を、意図的に設定する必要があります。

4 学校図書館に行くことと学力には関わりが見られます。

【資料4】「学校図書館に行くことが、好きですか。」×「学力層」



【資料4より】 学校図書館へ行くことと学力層との関わりを示しています。学校図書館に行くことが「好き」と回答している児童生徒は、小学校、中学校の各教科において、学力層 A を占める割合が高く、学力層 A、学力層 B を合わせると約 60% であることが分かります。この結果から、児童生徒の学力の向上に、学校図書館が大きく関わっていると考えられます。また、学校図書館の利用促進には、全校に配置されている学校司書の果たす役割が大きいことが分かっています。今後も、教師と学校司書が連携・協働しながら、授業の中に学校図書館を利用する場面を意図的・計画的に位置付けるとともに、学校図書館が児童生徒にとって居心地のよい場所であると感じられるようにすることが大切だと考えます。

お問合せ先

教育委員会事務局教育課程推進室長

関口 和弘

Tel 045-671-3723